

情報の価値を企業全体で活用する



IBM Information Management software



IBM Multiform Master Data Management

Business Overview

顧客、仕入先、商品、契約など、ビジネスに不可欠な価値の高い情報のことをマスター・データと呼びます。様々な業界において企業が直面しているビジネス課題は、このマスター・データと深く関係しています。この重要なビジネス情報であるマスター・データが、部門、支店、アプリケーション間で重複、断片化されている状況は、マスター・データが有効かつ包括的に管理されていないことの表れとして認識されるようになりました。ダイナミックに変化するビジネス要件を満たすことのできるIT能力が、今企業には求められています。

IBM® Multiform Master Data Management (MDM) は、企業全体でのマスター・データ管理を目的に設計された、実績のあるフレームワークによってマスター・データ管理の課題に取り組みます。MDMが基本原則とするのは、マスター・データを業務システムやトランザクション・システム、分析システムなどから切り離し、独立

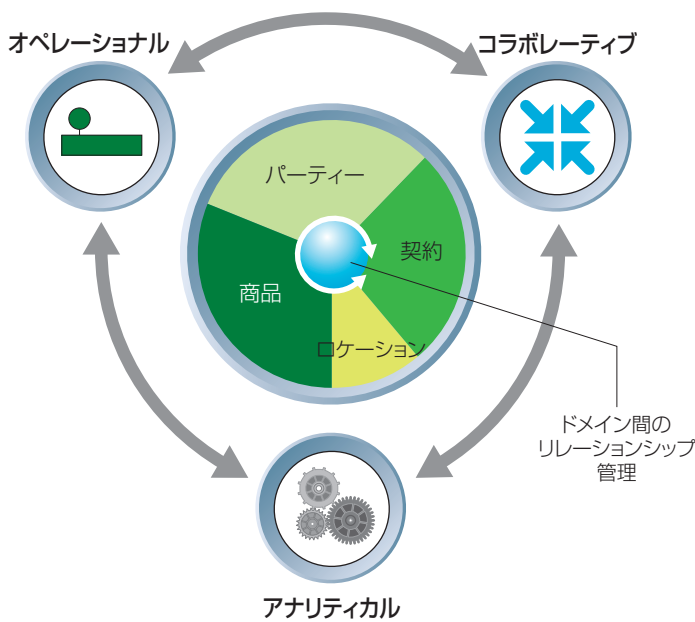
した集中リポジトリ、つまりハブに集約することです。集約された情報は、サービス指向アーキテクチャー (SOA) のビジネス・サービスに渡されるため、データは各種業務やシステム、アプリケーションから独立して管理されます。このような管理方法により、企業はすべてのシステム、アプリケーションに共通する機能性を識別し、ビジネス情報やプロセスを効率的かつ一貫して活用できるようになります。

マスター・データ問題への取り組みが始まった当初はビジネス・ニーズに基づくアプローチが主流であり、顧客情報や商品情報などの特定のデータ・ドメイン1つか2つに対応するのが普通でした。このようなアプローチから生まれたのが、MDM市場でよく知られている顧客データ統合 (CDI) や商品情報管理 (PIM) などのカテゴリーです。現在CDIやPIMは、MDMのサブカテゴリーとして考えられています。



複数のドメインを集約し、企業が求めるスタイルのマスター・データ活用機能を提供するマスター・データ管理は、企業にビジネス上の価値をもたらします。マスター・データ、つまり顧客、商品、契約などの重要なビジネス情報を効果的に管理することは、企業の収益増加を促進するだけでなく、コスト削減や戦略的な柔軟性の向上、リスク軽減にも繋がります。

マスター・データの活用スタイルおよび機能は、コラボレーティブ、オペレーショナル、アナリティカルに分類されます。例えばコラボレーティブ・スタイルのマスター・データ管理の場合、マスター・データを作成、定義、検証、追加することで、顧客や商品、仕入先、その他エンティティーに関する「Single version of the truth(唯一の真実)」を確立します。オペレーショナル・スタイルは日常業務に焦点を当てて、マスター・データを統合管理する活用スタイルです。また、アナリティカル・スタイルは、これまで分析に活用できていなかったマスター・データを分析システムが利用できるようにすることで、より深い洞察と幅広い視野を業務プロセスに提供します。



マスター・データの活用により、コラボレーティブ、オペレーショナル、アナリティカル、それぞれのデータ利用局面においてメリットが得られます。



MDMでビジネス情報の価値を引き出す

ビジネスの本質的な課題解決には、マスター・データ課題への取り組みが不可欠です。MDMの導入を通じて、企業は中核となる能力を強化し、新たな能力を生み出し、さらには競合他社との差別化を実現できます。MDMの問題解決に重要な役割を果たすIBM Multiform MDMには、以下の3つの活用スタイルがあります。

• 商品情報管理(PIM)のためのコラボレーティブMDM

商品データの適切な管理は多くの企業にとって悩みの種です。管理が不適切な場合、組織内の活動や取引相手とのやりとりに悪影響を及ぼす可能性があります。IBM Multiform MDMは、新商品導入などの重要なプロセスおよびワークフローを管理できるソリューションです。関係者が複数存在する状

況においてマスター・データの作成、定義、検証、追加を確実にサポートし、企業内に「唯一の真実」を確立します。

• 顧客データ統合(CDI)のためのオペレーショナルMDM

CDIは顧客を正確、完全、かつタイムリーに理解するのに必要な技術、プロセス、サービスを組み合わせたソリューションです。顧客は複数のチャネルや事業部間、場合によっては企業間にまたがって存在することもあります。IBM Multiform MDMにはCDIを支援するデータモデルやサービスが含まれています。バックエンド、フロントエンドの多種多様なデータ・ソースから顧客情報を抽出し、統合化された質の高いデータを全社内のビジネス・プロセスに提供します。

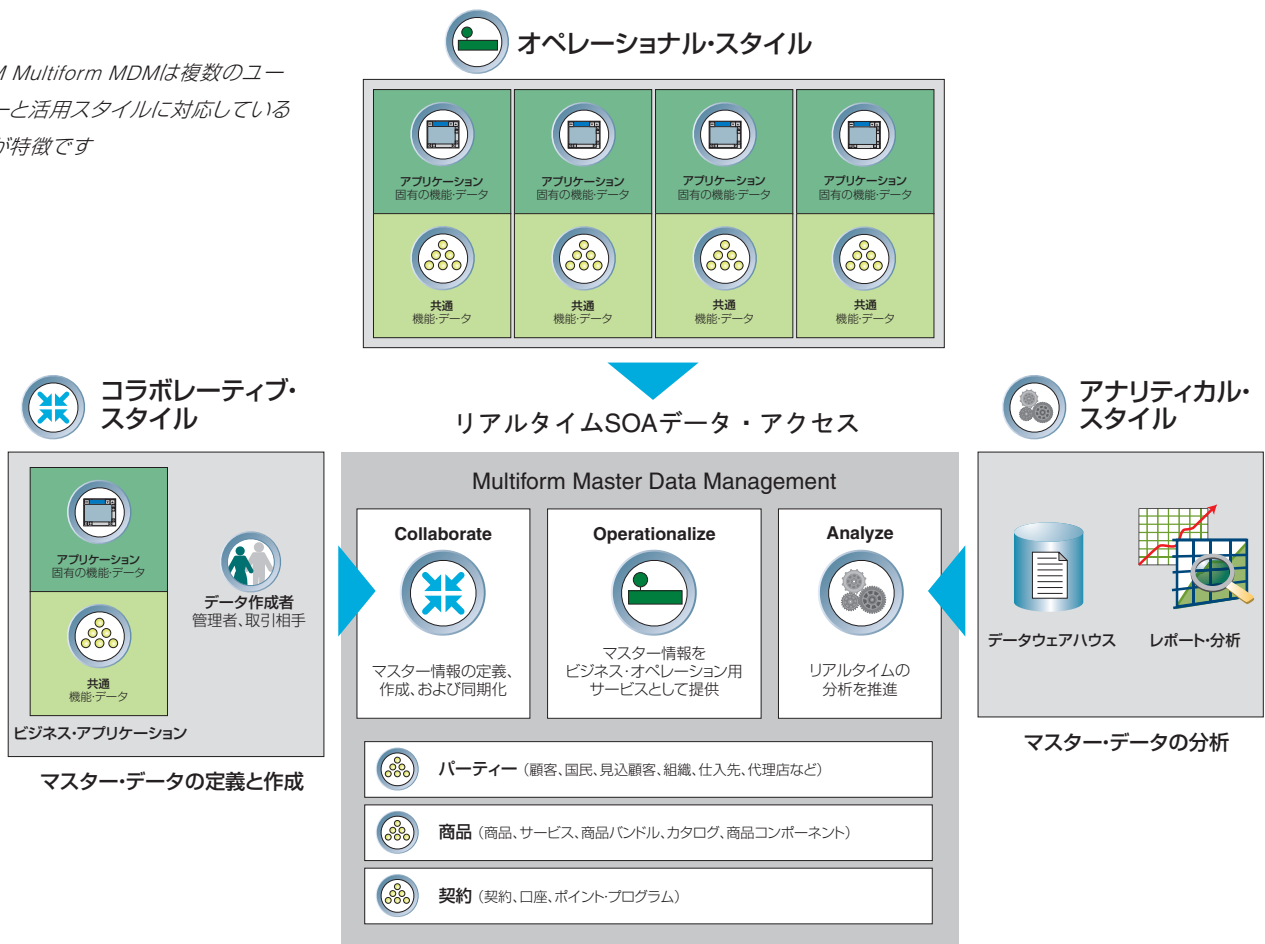


・情報から貴重な洞察を得るためのアナリティカルMDM

企業システムの情報から最大限の価値を引き出すには、マスターデータを継続して分析し、商品や顧客、契約などに関する幅広い情報を正確かつタイムリーに把握しなくてはなりません。IBM Multiform MDMは、マスターデータを社内システムに提供し、必要があればその情報を更新することもできます。

さらに、その情報を利用したシステムによる分析結果をトランザクション・プロセスにフィードバックして、業務に活用することも可能です。IBM Industry Modelsと組み合わせてビジネスの鍵となるデータを共通定義すれば、アナリティカルMDMはさらなる価値を生み出すことができます。

IBM Multiform MDMは複数のユーザーと活用スタイルに対応しているのが特徴です



MDMは企業に存在するあらゆる情報から最大限の価値を引き出します

MDMは、以下のようなビジネス・メリットの実現に役立ちます。

• 収益増加と顧客維持

顧客や契約、購入商品などの情報を把握することは、収益増加につながります。MDMを導入することで、企業はクロスセルやアップセルの機会を十分に活用できるようになります。また、複数の契約をまとめて管理することで、最重要顧客に対するサービス・レベルの差別化を実現できます。

• コスト削減

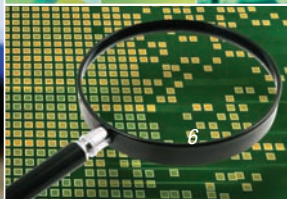
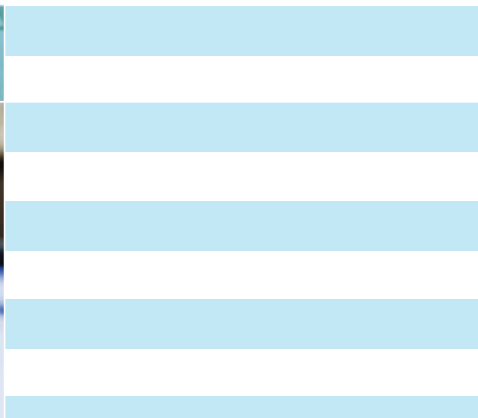
IBM Multiform MDMでビジネス・プロセスが円滑化、自動化されると、企業の業務効率が向上し、コストが削減されます。例えば新商品導入のプロセスや、市場の需要に迅速に対応するためのプロセスなどにかかるコストの削減が期待されます。

• 新たなビジネス戦略に対応する柔軟性の向上

合併・買収などの複雑な戦略を推進する企業は、IBM Multiform MDMにより敏捷性を手に入れることができます。先進的なIT企業の多くは、エンタープライズ・レベルでのSOA戦略を推進し、ビジネスにおける高い柔軟性の実現を目指しています。データ・ドメインを集中化し、情報をサービスとして提供する「Information as a Service」を実現する上で、IBM Multiform MDMは大きな役割を果たします。

• コンプライアンス準拠とリスク影響度の軽減

IBM Multiform MDMを導入すると、新たなドメイン情報の取得が容易になるため、コンプライアンス要件への迅速な対応が可能になります。また、一元管理されたデータからもたらされる深い洞察と広い視野によって、より正確でタイムリーな意思決定を支援します。



独自の戦略を推進するIBMのMDMには、以下のような特長があります。

• **機能性**

IBMはマルチフォーム機能を提供する、業界唯一のベンダーです。企業が求める活用スタイル(コラボレーティブ、オペレーショナル、アナリティカル)とドメイン(パーティー、商品、契約など)をすべて提供します。

• **パフォーマンス**

IBM Multiform MDMは完全なサービス指向であるため、マスターデータをリアルタイムで使用できます。また、世界最大規模の企業を対象にIBMが独自に行ったテストでは、トップレベルのトランザクション量が確認されました。

• **拡張性**

IBM Multiform MDMには複数の活用スタイルとドメインがありますが、緊急に取り組むべき戦略課題に対しては、1つの活用スタイルと1つのドメインでソリューションを開始できます。これを戦略的なアーキテクチャー設計の中心とし、その後のニーズに合わせてドメインや活用スタイルを追加するなど、将来的な拡張が可能です。

• **柔軟性**

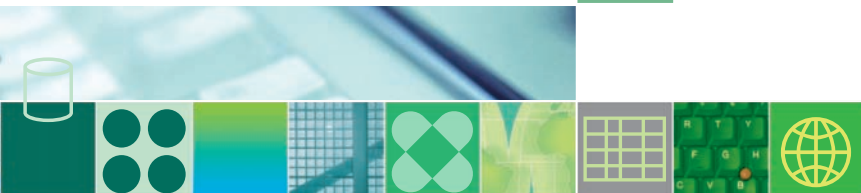
IBM Multiform MDMはSOAの方法論に基づき、Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™)、XML、Webサービスなどの標準技術に準拠して設計されています。これらの製品は、複雑性の高い異機種混在環境においても短期間での配備が可能のため、進行中のアプリケーション開発やイノベーションのためのフレームワークを提供できます。

• **総所有コスト(TCO)**

初期実装および後続フェーズ、いずれにおいても総所有コスト(TCO)の低額化を実現しています。IBM製品はMDMの配備に必要な本来の機能に加えて、将来的な変化に対応する拡張性を備えています。

• **時間とリスク**

IBM Multiform MDMは、十分な実績と信頼性を持つ技術に基づき構築されています。IBMはフェーズ化された実装に豊富な成功実績を持ち、短期間で価値を実現することで、お客様とアナリストの双方から評価を受けています。





詳細情報

IBM Multiform MDMの詳細については、
以下のWebサイト(英語)をご覧ください。

ibm.com/software/data/masterdata

IBM製品・詳細情報については、
IBMホームページ<http://www.ibm.com/jp/>
をご利用ください。

お問い合わせは、IBMビジネスパートナー、
製品販売店、弊社営業担当員

または、ダイヤルIBM(0120-04-1992)へ。

受付時間:月～金 9:00～18:00

(祝日、12/30～1/3を除く)

携帯電話でおかけのお客様は下記の電話
番号をご利用ください。

ダイヤルIBM 03-6220-8002(この場合通
話料はお客様のご負担となります。)

© Copyright IBM Corporation 2007

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

Produced in Japan
February 2008
All Rights Reserved

IBM、IBMロゴは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Sun Microsystem, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書において、IBM製品、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMが営業を行っているすべての国においてこのような製品、またはサービスが利用可能であることを必ずしも示すものではありません。また、内容は、予告なしに変更する場合があります。

このカタログの情報は2008年2月現在のものです。

TAKE BACK CONTROL WITH Information Management



IMB12030-JPJA-00